

第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会「総合開・閉会式会場」及び第 82 回国民体育大会「競技会場地市町村（第 1 次）」の選定について

国体準備室

1 「総合開・閉会式会場」の選定

本県の「総合開・閉会式会場選定基本方針※」を踏まえるとともに、運営上の観点から、総務企画専門委員会委員の下記のような意見を総合的に判断した結果、平成 30 年 11 月 9 日（金）の常任委員会において、総合開・閉会式会場は、松本平広域公園の陸上競技場とすることが「決定」した。

記

【陸上競技場での実施・県有施設の活用】

- (1) 入場行進から整列までの一連の利便性等の運営面を考慮し、陸上競技場で行うことが先催県の状況からも一般的。
- (2) 参加者確保の観点からも、最終日まで競技が実施される陸上競技場を会場とすることが適当。
- (3) 式の運営は県が行うことに鑑み、県有施設である「松本平広域公園陸上競技場」はふさわしい施設。

【全国障害者スポーツ大会・アスリートファーストからの視点】

- (1) 全国障害者スポーツ大会は、閉会式においては全選手・監督及び役員を含め約 5,000 名が参加することから、各競技会場からの移動等を考慮すると、県のほぼ中央に位置する陸上競技場で開催することが理想的。
- (2) 全国障害者スポーツ大会の開・閉会式会場は、「総合開・閉会式会場選定基本方針」により国体と同じ会場で行うことを原則としていることから、経費や運営面などからも、国体と同じ会場で行うことがふさわしい。

【レガシーの尊重】

- (1) 昭和 53 年（1978 年）の「やまびこ国体」において陸上競技会場となった「松本平広域公園」は、国体における貴重なレガシー。
- (2) 公園内にある競技場は、その後の陸上競技の発展に大きく寄与したことから、再びこの場所にスポットライトを当て、本県の更なるスポーツ振興へと繋げたい。

※（参考）総合開・閉会式会場選定基本方針（抜粋）

- ① 会場地となる市町村から開催に必要な協力が得られる。
- ② 会場周辺に駐車場等の用地や仮設テント等の設置スペースが十分確保できる。
- ③ 多数の参加者が集まる事ができる輸送及び交通手段が確保できる。
- ④ 会場周辺に相当の宿泊受入能力がある。
- ⑤ 総合開・閉会式会場は同一会場で行うことを原則とする。
- ⑥ 全国障害者スポーツ大会の開・閉会式会場は、国体と同じ会場で行うことを原則とする。

2 「競技会場地市町村（第1次）」の選定

【市町村別】

No.	市町村名	競技・種目名		種別	開催予定施設
1	長野市	水泳	競泳	全種別	長野運動公園総合運動場総合市民プール (アクアウイング)
			水球 飛込 A S		
		バスケットボール		全種別	真島総合スポーツアリーナ(ホワイトリング) 長野運動公園総合運動場総合体育館 南長野運動公園総合運動場体育館
		高等学校 野球	硬式		南長野運動公園総合運動場野球場 (長野オリンピックスタジアム) 長野運動公園総合運動場県営野球場
2	松本市	陸上競技		全種別	松本平広域公園陸上競技場
3	上田市	ソフトテニス		全種別	上田市新設テニスコート
		ラグビーフットボール		全種別	サニアパーク菅平
4	岡谷市	卓球		全種別	岡谷市民総合体育館(スワンドーム)
5	飯田市	弓道		全種別	県営飯田弓道場
6	諏訪市	セーリング		全種別	諏訪市特設セーリング会場
7	小諸市	レスリング		全種別	小諸市総合体育館
8	伊那市	ソフトボール		全種別	伊那スタジアム・伊那市営野球場 富士塚スポーツ公園運動場 美すずスポーツ公園運動場 高遠スポーツ公園総合運動場
9	佐久市	アーチェリー		全種別	佐久総合運動公園陸上競技場
10	下諏訪町	ボート		全種別	下諏訪町漕艇場
11	木曾町	相撲		全種別	木曾町民相撲場

※ 11 市町 14 競技

(参考)

- ・ 本県が2027年度に開催予定の第82回国民体育大会の実施競技の選定は、2020年3月頃に正式決定となるため、実施競技が変更になる可能性もある。
- ・ 競技数は冬季国体も含め約40競技程ありますが、今後、数字にわたり選定を進めていく中で、遅くとも2020年度末を目途に選定が完了できるよう取り組む予定。

競技会場地市町村（第1次選定） 市町村及び競技

（別紙）

